

平成 27 年度 第 3 回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 平成 27 年 7 月 27 日 (月) 午後 5 時 30 分～午後 6 時 15 分

会 場 磐田市役所 西庁舎 3 階 特別会議室

出席者 市長、教育長、杉本憲司委員、青島美子委員、田中さゆり委員、秋元富敏委員
(出席者 6 名)

事務局 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長
秘書政策課政策推進グループ長、同課同グループ主査、
教育総務課児童・総務グループ長、同課同グループ主任

傍聴者 3 名 (一般 1 名、報道機関 2 名)

[会議次第]

- 1 開会
- 2 協議事項
(1) 磐田市教育大綱 (案) について
- 3 閉会

[協議の主な内容]

「磐田市教育大綱（案）について」（事務局説明）

市長

委員の皆様より、意見、感想をいただきたい。

委員

生涯にわたり社会を生き抜く力を育成するところがよい。異世代のつながりの表現について前回意見が反映されている、その上で新時代の教育コミュニティが盛り込まれていてよいと思う。

委員

文脈がとりにくいのが気になった。途中で文章を切った方が分かりやすい。例えば、「子育て、教育なら磐田」と誰もが実感できるまちづくりを下記のとおり目指します。

かけがえのない命を精一杯生き、ふるさとの先人たちが築きあげた磐田の大地に根を張った人づくりの精神と伝統文化を継承し、生涯にわたり社会を生き抜く力を育成します。

さらに、学校・地域・家庭の連携・融合による学府を核とした、新時代の教育コミュニティ、すなわち次代の社会をつくる学びの場を形成します。

としてはどうか。

委員

内容的には、必要な言葉やキーワードが網羅されているので問題ないが、文節が長いのが気になった。文章の構成は委員の提案のものでよいと思う。事務局では「次代の社会」と「新時代」の意味合いをどう考えているか。

事務局

「次代」というのは代をつなぐという意味から次代^{つぎだい}と記述し、「新時代の教育コミュニティ」というのは、新しい時代に磐田市が目指していく教育コミュニティであり、学校教育だけでなく、地域での交流センターなどで展開される生涯学習活動まで含んだ学びの場と捉えています。

ここでの次代、新時代の意味合いはそれぞれ違うものとなります。

委員

事務局の回答を踏まえたときに、先ほどの宣言文の解釈はどのようになるでしょうか。「すなわち」というとイコールとなるように思えますが。

委員

「学府を核とした」の後に「新時代の教育コミュニティ」をもっていった方が分かりがよく、次代の社会をつくる学びの場という言葉も入れた方がいいと考えてすなわちとした。

すなわちではなく、句読点でつないでも良いと思う。

委員

「学府を核とした新時代の教育コミュニティ」という記述において、新時代という言葉は大事であるとする。

教育長 順序性からすると、新時代の教育コミュニティより次代の社会をつくる学びの場の方が後にくると考える。新時代は次代よりも時間的に狭い範囲を示すものであり、今後、磐田市が目指す方向性を表すキーワードとなります。

委員 道しるべを作ったときの思いが短い文の中に網羅されていると感じた。
次代と新時代については同じトーンに感じるため、ここの文体を考えたほうがよいと思う。

委員 「学府を核とした」の後は「新時代の教育コミュニティ」と続けるのがよいと思う。新時代の教育コミュニティとは、代をまたいで社会をつくっていく学びの場であると解説するほうが納得する。

教育長 「すなわち」をどうするか。あえて「すなわち」を入れた方が次代が生きつぎだいてくると考える。

委員 すなわちという言葉は言い換えればという意味だと考える。

委員 では、そしてではどうでしょう。

委員 そしてであれば、別の意味になるので、事務局案と整合性がとれる。

教育長 そしてとするならば教育コミュニティの後に「つくり」などという言葉を入れる必要がある。

委員 形成という言葉はコミュニティ、学びの場どちらにも当てはまると思います。

委員 「すなわち」という言葉は普段あまり使わない言葉で強い言葉の印象がある。

事務局 新時代の教育コミュニティと次代の社会をつくる学びの場の2つがあると思いました。したがって、「新時代の教育コミュニティと次代の社会をつくる学びの場を形成します。」とし、文章を単純につなげることで、教育コミュニティと学びの場の2つを形成すると整理したらどうか。

委員 「と」でつなぐ考え方がよいですね。

市長 最終的なところまで詰めてきているので、事務局も感想を言って下さい。

事務局 次代と新時代は単純につなげる手法が良いと思う。

事務局 「新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。」という表現ではどうかと考えました。

市長 上段2行は下記のとおり目指します。と変更することで異論なし。かけがえのない命を精一杯生きの段落も、委員案のとおりで異論なし。3段落目の3行の綴り方で、次代の社会をつくる学びの場が後段にくることも異論はないということで、残るは言葉のつながりをどうするかですが、みなさんの意見で決めていただければと思います。

案1
新時代の教育コミュニティと次代の社会をつくる学びの場を形成します。

案2
新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。

委員 案2がよいと思います。

委員 案2がよいと思います。

委員 新時代の教育コミュニティはすべてを網羅するものであるとっていて、次代の社会をつくる学びの場も含まれていると考えていた。それぞれ別々のものをつくるのかと考えると、次代の社会をつくる学びの場だけで考えた場合どういうものなのかと引っ掛かりを感じた。

事務局 次代の社会をつくる学びの場は新時代の教育コミュニティを形成する上で含まれている。学びの場をつなげていくことで新時代の教育コミュニティが形成されていくものと考えている。

委員 学びの場の前に「生涯の」と加え、次代の社会をつくる生涯の学びの場を創造するとしたらどうか。

市長 2段落目に生涯という言葉が使われていますが、いかがでしょうか。

委員 今後、磐田市は学府を核とした教育コミュニティをつくっていくという方針だと思います。地域の中の核となる教育コミュニティの単位を学府と捉え、学府の中の構成要素として、地域住民の参画によるコミュニティ・ス

クールがあります。大きな意味で新時代の教育コミュニティにおいて、地域独自の教育文化をつくっていくということになると考える。

また、前回、個人の生涯学習活動にとどまらず、代を重ねていくことを意識したうえでの教育行政の仕組みづくりが求められていると意見を述べた。

次代の社会をつくる学びの場すべてを大きくとらえたのが新時代の教育コミュニティであると事務局が言われたのは、代をつないでいく仕組みづくりのこととも捉えられるかと思う。

事務局

少子高齢化やグローバル化の進展など社会の要請に対応するため、新しい時代の教育コミュニティを形成していく必要があると考えます。

学府を核として教育コミュニティを形成することにより、次代の社会をつくる学びの場を創造するという広がりが見えるため次代と新時代の順番は逆にするほうがよいと考えます。

委員

地域の子はその地域でしっかりと育てていきたいと思いますという意味であり、新時代へとつなげていくということと捉えてよいですか。

委員

それと同時に、育てようとする自分たちも学びの場を通して学び続ける必要があるということを行っていると考えますがいかがでしょうか。

事務局

2段落目の「生涯にわたり社会を生き抜く力を育成します。」というところで個の力を育成するということであり、3段落目では、地域社会での全体的な広がりをもたせるという意味合いだと思っています。

教育長

次代の社会をつくるということは、次へつなぐ、受け継いでいくということが大事である。コミュニティをつくるということ自体が目的でなく、次へつなぐ、受け継いでいくことが中心的な目的となっていくものである。

^{つぎだい}次代の社会をつくる^{つぎだい}として生涯と加えるという意見には反対で、^{つぎだい}次代の社会をつくる^{つぎだい}学びとすることによって次へつなげる意味合いが強くなる。文言としては、学府を核とした新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造しますがよいと考える。

創造という2文字を入れることに意味がある。

市長

では、今一度確認します。

さらに、学校・地域・家庭の連携・融合による学府を核とした、新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。

委員

(一同同意)

市長

全会一致となりましたので、事務局で確認作業をお願いします。

事務局

「子育て、教育なら磐田」と誰もが実感できるまちづくりを下記のとおり目指します。

かけがえのない命を精一杯生き、ふるさとの先人たちが築きあげた磐田の大地に根を張った人づくりの精神と伝統文化を未来へ継承し、生涯にわたり社会を生き抜く力を育成します。

さらに、学校・地域・家庭の連携・融合による学府を核とした新時代の教育コミュニティを形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。

市民誰もが進むべき道を示した“「磐田の教育」道しるべ”と、子どもたちの成長を育む“磐田市こども憲章”を基に、本市の未来をひらく礎となる基本理念を教育大綱として定めます。

市長

全会一致で大綱が決まりましたので、案をとって磐田市教育大綱とします。

以上で終了いたします。ありがとうございました。